横浜スポーツ＆医療ウェルネス専門学校

2026 年度学校関係者評価会議事録

日時	2026 年 8 月 27 日(水)　15：00～16：00	
場所	横浜スポーツ＆医療ウェルネス専門学校　3 階　セミナー室	
出席者	学校関係者評価委員	中村　ふじ 様　（Coach-F 代表）
		二宮　克行 様（医療法人社団顕鐘会 神戸百年記念病院　理事・事務長）
		佐渡　裕也 様　（JR 東日本スポーツ株式会社事業推進部 ジェクサー事業部 副部長）
		宮辺　薫 様　（株式会社 I&S BBDO アカウントマネージャー）
		加藤　基 様　（日本陸上競技連盟 トレーナー部 名誉部員 / 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科講師 ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）
	本校教職員	松尾　信　（横浜スポーツ＆医療ウェルネス専門学校　グループ長）
		知久　末衣（教務グループリーダー）
		秋山　貴志（教務チーム：医療事務科　学科まとめ）
		岡部　華子（教務チーム：スポーツ系　学科まとめ）
		鈴木　寛隆（教務チーム：スポーツ系学科）※議事録担当
欠席者	学校関係者評価委員	泉　重樹 様（法政大学スポーツ健康学部 スポーツ健康学研究科教授 ・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）
資料	2026 年度　学校関係者評価会議　実施要領 当日説明用スライド資料 自己点検・評価表	

＜議論の要旨＞

１．グループ長挨拶（松尾）

・本年度アスレティックトレーナー科が初めて卒業生を輩出する

・みなとみらいで新しいキャンパスが開校（横浜情報科学専門学校、横浜デジタルアーツ専門学校が新キャンパスへ移転予定）

２．2025 年度 教務運営状況（知久）

【2025 年度　教務運営目標-実績】※（　）は前年度比

出席率　　：目標　90%以上　→実績 91.2%（+0.2%）

退学率　　：目標　5.0%以下 →実績 6.9%（+1.5%）

就職率　　：目標　96%以上　→実績 92.7%(+5.9%)

教員アンケートスコア　：目標　4.0 以上　→実績 4.4pt（+0.1pt）

資格取得率　　：目標　100%　　→実績 100%（±0pt）

３．2025 年度 募集状況(松尾)

入学者数：目標 167 名（医療事務 80 名、スポーツ 70 名)、HIM 進学希望者数 13%以上

→実績 158 名（昨年比+39 名、医療事務：30 名、スポーツ：128 名）

HIM 進学希望者　13%以上のところ 25.8%（+12.8pt）

４．自己点検・評価表　評価項目の達成及び取組状況（松尾）

詳細は資料 自己点検・評価表を参照

５．2026 年度目標と取り組み

【2026 年度　学校方針】(松尾)

学校全体　　：一人ひとりの力を大切にしつつ、チーム全体で協力し未来を創る

経営管理チーム：学校のさらなる認知拡大と、少子化に負けない学生募集

教務チーム　　：就職の実現、夢の実現をサポート、資格取得の徹底

【2026 年度　教務運営目標】（知久）

・出席率　　：90%以上
・退学率　　：7.0%（19 名まで）
・就職（進路）確定率　：96%以上
・教員アンケートスコア：4.0 以上（最低 3.5%以上）
・資格取得率　　：100%
・学科別目標資格取得率：前年度＋10%以上
・夏休み後にモチベーションが下がり退学者が増加しやすいため、学生への声かけを適宜実施し、状況に合わせ面談などを行い、個々に寄り添ったサポートを行っていく（知久）
・スポーツの学生が増えていく中で、医療事務の学生とは異なる雰囲気を持っている。特別問題はないが、両学科の共生についてどの様に対応していくのか引き続き注視していく（松尾）

【その他】（松尾）

・医療 IT 科は昨年度末（2026 年 3 月）をもって廃止
・診療情報管理専攻科は 2027 年度末（2027 年度 3 月）をもって廃止

6．意見交換

・（松尾）医療系学科では起きていなかった諸問題が、スポーツ系学科が新設されてから起きるようになったため、対応策について日々検討しているが皆さまからアドバイスを頂戴したい

→（中村様）高校野球部をみていると、弱さうえに物に発散してしまう時（場面）が多い。否定されることに弱い印象を持っているが、一方で、自分が理解されていると感じると、力を発揮するように感じている。勉強の仕方や覚え方、それらに対して成功体験をさせることがいい刺激につながるのではないか？

・（知久）就職に関するモチベーションについて。目指していた目標（就職や資格）に対して、挫折した際にどのように対応すべきかアドバイスをいただきたい

・（秋山）就業前研修などで現実に直面し、心が折れてしまう学生が多いことが一つ悩みである。実際にどの程度まで学生に手を差し伸べるのが正解なのか、ご意見を頂戴したい。

→（宮辺様）学生が聞いている話は基本成功している人の話。失敗した人（話）を聞く機会を創出するのもいいのではないか？おそらく、ゲストスピーカーも成功した人の話がほとんどではないか？

以上